

災害救援ボランティア講座を実施しました！

中央大学学生部

2005年7月29日(金), 30日(土), 31日(日)の3日間

「災害救援ボランティア講座」を実施しました。

(主催：学生部 協力団体：災害救援ボランティア推進委員会 後援：総務省消防庁・NHK)

62名の学生が、実践的な防災の基礎知識と応急手当を学ぶために真剣に取り組みました。講座の修了者には、災害救援ボランティア推進委員会より「セーフティリーダー認定証」が、東京消防庁より「上級救命技能認定証」が、それぞれ交付されました。

内 容 1日目 応急手当活動(東京消防庁による上級救命講習)

2日目 立川防災館にて災害模擬体験と実技(消火訓練・地震体験・煙体験)

3日目 災害・防災について(講義等)、認定証授与

災害救援ボランティア講座 受講者の感想

災害時は、みな、焦り、慌てると思うので、誰かの適切な指示が必要だと思います。そんな時に、誰かに頼るのではなく、まず自分がリーダーとなる心意気でいようと思います。

(文学部3年女子)

災害はいつ起こるか分からないから、心の準備・身体の準備・食料の準備などできるだけのことをしておきたいです。この講座を若い人にもっと受けてもらいたいと感じました。災害の時には、きっと若い人の体力・気力が助けにな

るだろうから。(商学部1年男子)

自らのできる範囲内で人の役に立とうという気持ちが災害救援ボランティアにとって大切だと思います。(法学部1年女子・経済学部1年男子・文学部2年男子)

震度7の地震体験や消火器を使っの消火訓練など日頃体験できないようなことまで盛り込まれていて、自分にとって充実した3日間でした。

実際に火事に遭遇した場合、消火器を一度でも使ったことがあれば、だいぶ違うと思います。最も重要なことは実際に体験することだと思います。(法学部2年女子・経済学部3年男子・文学部3年女子)



講座運営者が皆、意欲的に親切に接してくれた事が、「今回学んだ内容は決して無駄ではない」ということを保証してくれているようで、受講を選択したことに非常に満足しています。

(法学部2年男子)

被災地で「生命」の次に心配するのは、「今後の生活」だと思います。

将来弁護士になりたいと思うので、法律知識を有したセーフティーリーダーがいれば市民は安心できるのではないかと考えています。

(法学部3年女子)

自分が被災者になったらどうすればよいか、ボランティアをする上で何ができるかという事は、いつかは絶対に必要になる知識です。皆が受講するべきじゃないかと思ひます。

(商学部1年女子)

近々、カンボジアへボランティア活動に行くので応急手当を学ぶため参加しました。

将来、東南アジア、アフリカ、中南米等の発展に携わる仕事に就きたいと思っています。衛生面や教育面での国の福祉が行き届いていない発展途上国で、根本治療のために国の憲法を作ったり、法律を整備したりすることに尽力したいと思っています



ですが、直接人々と触れ合うことが少なくても、こういった目標を持つ者として災害救助の基礎知識や基礎理念は学んでおくべきだと思います。

今回学んだ知識を周囲に広めて、救命の輪の一端を担えたらと思っています。

(法学部3年女子)

プールでライフガードのアルバイトをしているので、実際に心肺蘇生を行うには、今回の講座だけでなく、もっと完全な知識を習得すべきだと感じました。

(法学部3年男子)

山岳系のサークルに所属しており、中越地震の際に、サークルからも何名かボランティア活動に参加していたが、ボランティアの知識が少



学生部だより CampusLife Coordinator キャンパスライフ コーディネーター



なく苦勞していました。今後は、この講座で身に付けたことを活用し、有事に備えたいと思います。
(法学部3年男子)

